

第2学年 道徳の時間 展開構想

1 主題名 「異性への理解を深め、互いの幸せを願う」

内容項目【2-(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。】

資料名 「賢者の贈り物」(富山房 O・ヘンリー 文/リスベート・ツヴェルガー画/矢川澄子 訳)

2 主眼 異性を深く理解し、何よりも互いの人としての幸せを願う、信頼と敬愛の念を育てる。

3 準備 ①資料プリント ②学習プリント ③挿絵

4 展開構想

「教師の発問」

「発問の意図」

「予想される生徒の反応」

○ 「恋愛において大切なことは何か」を問い、本時学習の方向性をつかませる。

【1. 補助発問】

恋愛で大切にしたいことについて考える。

「恋愛で大切なことは？」

「恋愛において大切だと思うことは何か」を問うことで、本時学習の方向性をつかませる。

- ・相手が優しくしてくれること
- ・自分のことを分かってもらうこと
- ・困ったとき助けてくれること
- ・落ち込んだとき励ましてくれること

○ めあてを提示する。

【めあて】 恋愛において大切な心について考えよう

○ 資料を読み、何よりも相手を大切にしたいと思う心について考える。

【基本発問】

髪を売ると決心したのに、なぜデラは鏡の前で涙を流したのだろう。

デラが涙を流したのは、自分の髪を売るのが惜しいからではなく、ジムが自分の髪を大切に思ってくれているからであることをおさえる。

- ・ジムが大好きなこの髪がなくなったらジムは悲しむかしら。
- ・ジムは私を嫌いにならないかしら。
- ・ジムならきっと分かってくれる。

【中心発問】

「見損なっては困るよ、デラ」と言われ、プレゼントを渡されたデラは何を思ったのだろう。

ジムが自分の葛藤を理解してくれたこと、口にしなくても自分の欲しい物を分かってくれていたことに深い喜びを感じていることをとらえさせる。

- ・やっぱりジムは、私のこの思いを受け止めてくれた。
- ・ジムは気づいてくれていたのだ、私が欲しがっていることに。
- ・ジムが私のことを分かってくれていることが、何よりうれしい。

【基本発問】

なぜ二人は、それぞれが一番欲しがっている物を贈り物として選ぶことができたのだろう。

日頃から相手をよく見て、よく話し、理解しあっているからこそ、相手が一番欲しがっているものを選ぶことができたことをとらえさせる。

- ・よく話しているから。
- ・相手のことを、いつでも大切に考えているから。
- ・相手のことを理解しようと、努力しているから。

○ 本時学習をふり返り、これからの恋愛において大切にしたいと思う心について考える。

【基本発問】

これからの恋愛で最も大切にしたいのはどのような心か。

これまでの自分の考え方や行動をふり返り、これから大切にしていきたいことについて考えさせる。

- ・求めるばかりではなく、相手のことをよく理解しようとする心
- ・相手の幸せを願う心
- ・相手の幸せを自分のこととして喜べる心

## ◇ 授業の様子

### < 導入 >

はじめに、最近婚約発表を行った芸能人がまだ恋人であった頃の喜びに満ちた写真を提示し、二人のコメントを紹介した。その後で、「恋愛において、大切なことは何だと思うか」を問うた。生徒からは「相手が優しくしてくれること」「自分を楽しませてくれること」等の反応が多く、「自分に対して、相手が役立つことをしてくれることを期待している」ことが明らかになった。

### < 展開前段 >

資料「賢者の贈り物」をもとに、互いに深く理解し合い、何よりも相手の幸せを願うことの大切さについて考えた。

ここでは妻であるデラに焦点を当てて考えさせていった。

また、中心場面を「『見損なってもらっては困るよ』と言われ、ジムからプレゼントを渡された」場面とした。それはこのときこそ、「デラが髪を売ることを決心したのも、それをためらったのもジムを思っていることであつたが、そのことをジムが分かってくれた」「言葉にしていけないのに、ジムは自分が櫛を欲しがっていたことを分かってくれていたことを知った」場面だからである。

はじめに「髪を売ることを決心したのに、デラが鏡の前で涙を流したのはなぜか」と問い、自分の髪が惜しいからではなく、その髪を気に入っていた夫ジムが悲しむのではないかと思い、心を痛めていることをつかませた。つまり、デラの心の揺れは自身のためではなく、ジムを思うが故であることをつかませたのである。

次に「『見損なってもらっては困るよ』と言われ、プレゼントを渡された時のデラの気持ち」について考えさせた。生徒からは、ジムが自分の思いを分かってくれることへの驚きや喜びが挙げられた。その後で「二人はなぜ、お互いが一番欲しがっている物を選ぶことができたのか」を問い、出された意見をまとめ、「いつでも相手のことを理解しようと努めているから」であることをおさえた。

### < 展開後段 >

資料から離れ、導入と同じことを問うた。生徒達は導入時に出た意見と比べながら、「『はじめは相手に〇〇してほしい』という考えだったけれど、今日の学習を通して、自分がとか相手がではなく、『互いに』という気持ちが大切だと思うようになった」という意見が出された。

### < 終末 >

これまでの自分を振り返り、これからの自分について考える時間を設定した。生徒は、「互いにわかり合えるようになりたい」「自分のことばかりではなく、相手の幸せを願えるようになりたい」という感想を書いていた。